推移　(単位:円/ℓ)

格差 K−C	格差 D−C
12.85	11.84
10.35	10.24
10.65	10.54
10.07	9.93
10.07	9.93
9.72	9.60
10.19	10.06
10.14	10.01
▲0.21	▲0.23

リン税を含まない。

は縮小

り、安値を目にした顧客
って繰り返されている。
に至る導火線に火をつけ

全商品が3週続落
ガソリン40円台割れ38円台

TOCOM（東京商品取引所）石油市場の十六から二十二日の週間取引価格は、海外原油価格が下落したことを反映して原油、ガソリン、軽油は三週連続、灯油は五週続落した。四商品すべて下落するのは、三週連続になる。ただ下げ幅は前週にくらべて縮小した＝別表参照。

前週末に公表された米国の原油生産に使う掘削設備の稼働数が増加、原油輸出解禁する法案が成立し、四十年ぶりに輸出することが決まるなど供給超過が長期化するとの警戒感が広がり、価格下落が続いている。また来日したIEA（国際エネルギー機関）のファティ・ビロル事務局長は講演し、今後の原油動向については「供給過剰の状況も二〇一七年にかけて改

き円単位の下落が続いている。二十一日には、三十九円を割って一時三十八円十一銭と今年最安値をつけた。

灯油の週間平均価格は、一円十四銭下落の三十六円八十九銭で今年最安値だった。十七日以降三十六円台で推移した。二十一日には、一時三十六円十二銭まで下落し今年最安値になった。

に下落し、今年最安値をつけている。

原油と製品の価格差を精製マージンとみると、ガソリン、灯油、軽油すべての商品が下落した。全商品が下落するのは二週連続になる。

ガソリンは一円十四銭縮小して十二円十銭になった。十月十四―二十日以来九週ぶりに十三円台を割った。灯油は二十一銭縮小の十円十四銭と十二台円を割った。十円台は二週連続になる。軽油は、二十三銭縮小し十円一銭。十円台は二週連続になった。

長野県　配達灯油の注文に変化
「おまかせ」から「使用分」へ
消費者生活防衛意識続く

【長野】長野県内の灯油価格は昨年とくらべて大幅に値下がりしてシーズン入りした。だが単価下落にもかかわらず、配達灯油の注文の仕方に変化が生じているようだ。おまかせ配達や数量指定に替わり、使った分だけ注文するという方法だ。手持ちのお金を無駄なく使いたいという心理の表れと推測できる。水道光熱費と同じとらえ方をしているようだ。

暖房や給湯用の安価なエネルギーとして生活に不可欠の灯油。圧倒的な価格競争力を有していたときには"どうせ使うもの"という考え方で、配達時は常に満タンにするのが普通だった。だが価格高騰が数量指定の客を増やし、配達から店頭購入に客を移動させた。そして大雑把な数量指定に替わり、使用した量だけという精密な注文をする客が出ているという。

民族系の業者は十一月から続く配達灯油の減少を、単に気温の高さによるものだけとはみていない。「昨年から顕著になったエアコンとの併用や、使った数量だけ注文する客も出ている」と指摘する。店頭購入の落ち込みが配達灯油の減少より少ないため、気温の高さだけが減販の原因ではないとみる。

県内では年金受給者が増え可処分所得もほとんど上昇していない。灯油の単価が下がったといっても、消費者は生活防衛のため財布のひもを緩めてはいない。灯油をめぐる消費者の動きは注文配達から店頭購入、おまかせ配達先の指定数量化、掛け売り年金受給客の現金化などに細分化してきた。一向に給与が上がらないという状況のもとでは、単価の下落で節約が緩むどころか、余計な金を使いたくないため使用量だけ注文するという新たな形を生み出しているようだ。

消防法規制強化　小規模SS重い負担
「別のやり方あるのでは」　四国地区

【高松】消防法規制強化にともなう漏洩防止措置で、四国地区の小規模店は埋設後四十年以上ではコスト負担が少ない精密油面計などの設置で済ませているSSが少なくないが、埋設後五十年を迎える時期に事業を継続するかどうか決めかねている例や、閉鎖や撤退の意向を示す業者が出ている。

数年後に埋設後五十年となるSSを運営する販売店主の一人は「漏洩防止で精密油面計を設置したが、FRPライニングや電気防食の工事は国の補助があっても負担が重すぎる。数年後にはやめていると思う。SS業を始めた時期などを考えると、これから五十年を迎え、大きな費用負担を余儀なくされるSSが多く出ると思うので、SS閉鎖が増えることは間違いない。消防法の規制はきつすぎるように思う」と話し、五十年の時にはSSを閉鎖し、業界から撤退する考えという。

別の販売店主も「今回の消防法の規制は、郡部の小規模SSにとっては負担が大きすぎる。もう少し負担が少ない方法で漏洩を未然に防ぐ方法がないのか。埋設後の経過年数で一律に規制するのでなく、別のやり方もあるのではないか」と指摘するなど、消防法の厳しい規制措置の緩和を要望する声が聞かれる。

JOX石油製品現物インデックス12月22日(火)

[海上]	ガソリン		灯油		軽油	
京浜湾		40.00	35.50	43.40	43.00	45.50
中京						
阪神	37.00	39.20		43.40		44.50
大西	37.50	39.50	33.00	38.50	45.50	45.50

[陸上]	ガソリン		灯油		軽油	
千葉・川崎(製)						
中京(製)						
阪神(製)						
東京湾(槽)						
中京(槽)						
阪神(槽)						

単位:1,000円/㎘。午後6時までの取引。(製):製油所、(槽):油槽所。各油種＝左:買い、右:売り。[海上] 12月渡し、[陸上] 1月1日までの取引。時間内取引が1件の場合:買い・売り同一値。複数の場合:低値は買い、高値は売り。実取引がない場合:買い・売りの気配値。気配値がない場合:空白。

小口A重油　LPガスへ燃転増加
需要取り込む対策必要に　四国地区

【高松】四国地区ではガソリンのほか小口A重油や軽油、灯油の配達で収益を上げている中小SS業者が少なくないが、最近設備老朽化などを理由に電気やガスへの燃料転換が進み、減販傾向が強まっている。

特約店社長は「設備が古くなったA重油の需要家がLPガスなどに転換する例が増えている。LPガス業者の攻勢もあるようだ。対策は難しい。軽油は工事関係で少し動きが出ている」と話す。

小口A重油はマージンが確保でき、安定収益にもつながっているが、他エネルギーに燃転されると需要回復は容易でない。SS、LPガス事業を手がける業者のなかには、設備が老朽化しているA重油需要家にLPガスへの転換を勧め、自社との取引関係を維持、継続している特約店もあ

ドバイ原油・東京バージガソリン・灯油・軽油先物取引価格

2015年12月22日	12月限	1月限	2月限	3月限	4月限	5月限
ドバイ原油						
始値	26,220	24,620	25,210	25,850	26,500	27,230
高値	26,540	25,040	25,720	26,360	26,990	27,670
安値	26,180	24,620	25,210	25,850	26,500	27,210
終値	26,540	25,020	25,720	26,330	26,990	27,660
前日比	140	420	410	420	410	410
出来高	181	353	339	228	454	4,985

2015年12月22日	1月限	2月限	3月限	4月限	5月限	6月限
東京バージガソリン						
始値	38,030	37,880	38,700	40,100	40,690	41,060
高値	38,770	38,420	39,220	40,770	41,380	41,700
安値	38,020	37,870	38,700	40,100	40,690	41,050
終値	38,740	38,420	39,180	40,750	41,380	41,690
前日比	640	440	400	380	410	440
出来高	200	73	70	64	129	1,863

2015年12月22日	1月限	2月限	3月限	4月限	5月限	6月限
東京バージ灯油						
始値	36,210	36,170	35,580	35,490	35,740	36,130
高値	36,780	36,730	36,210	36,180	36,490	36,740
安値	36,070	36,130	35,570	35,490	35,740	35,960
終値	36,780	36,730	36,210	36,180	36,420	36,660
前日比	610	540	540	510	560	590
出来高	191	169	39	55	78	324

2015年12月22日	1月限	2月限	3月限	4月限	5月限	6月限
東京バージ軽油						
始値	-	-	-	-	-	-
高値	-	-	-	-	-	-
安値	-	-	-	-	-	-
終値	-	-	-	-	-	-

エフ・ケイメカニック

DDF内覧会を実施
来年3月販売目指す
データ収集兼ね実車走行

左から石橋良則門倉商店工場長、衛藤会長、古川社長

エフ・ケイメカニック（本社大分市・古川克己社長）は先頃、千葉県佐倉市の門倉商店液化自動車部で、かねてから開発中だった軽油とLPガスのデュアルフューエルによるトラック車両の内覧会を行った。市販されれば、デュアルフューエル車として日本初となる。

同内覧会はエフ・ケイメカニックと門倉商店（本社東京都中央区築地・市橋信之社長）の両社が主催したもので、衛藤五男LPG内燃機関工業会会長やLPガス元売事業所のほか、地元の運送事業者も参加し、大きな注目を集めた。

今春から日野の三㌧トラック「デュトロ」をベースとしたDDF車両の開発に着手してきた。車両は今秋に完成し、実燃費データの収集を兼ねて、今回は大分県から千葉県までの道のりを実車で走行した。途中二百㌔の高速道路中心の走行結果は、使用した燃料は軽油で二十㍑、LPガス二十三㍑でLPガスの割合が五〇%を超えている。

DDF車

車両はガスボンベの配送用仕様で作製されている。これはLPガスの使用拡大と、コスト削減を目指すLPガス事業者への強いメッセージとなっている。LPガス容器配送車として市内走行でのLPガス使用割合は三〇%程度を目指している。過酷な使用環境にも耐えられ、コスト削減を実現できるDDF開発に対する要望は大きかった。

内覧会は来場者の試乗などで活況を呈し「パワーが落ちない。力強い」といった上々の反応があった。古川社長は「LPガス事業者さまの使用状況に合わせて調整、データ収集を行い、三月には販売にこぎつけたい」と意気込んでいる。（佐倉市＝千葉）

灯油50銭―6円強値下がり
岐阜県業転価格

【岐阜】本紙名古屋局調べによると、岐阜県SS向けガソリン業転価格（SS届け・消費税別）は二十二日現在、前週（十五日）とくらべて㍑当たり二十銭―二円十銭値下がりし、一部横ばいだった。軽油は二

留萌石協

留萌振興局に要望書提出
「地元業者配慮を」

【留萌市＝北海道】留萌石協（対馬健一理事長）は十八日、留萌振興局（藪紀洋局長）と留萌教育局（斉藤和利局長）を訪問し、対馬理事長は両局長に「平成二十七年度中小企業者に関する国等の契約の基本方針に沿った入札等について」の要望書を直接手渡した。

対馬理事長は「地元業者に配慮する入札制度に努めて、分離、分割発注など確保、拡大」に努めるように要望した。

対馬理事長と簾内武務理事が留萌振興局、留萌教育局を訪問し、両局長に要望書を手渡した。

要望書には「本年八月に中小企業者に関する国等